最新レイヤー設備見学会

東洋システム㈱が千葉、奈良で開く

東洋システム㈱（安田勝彦社長・本社・岐阜県各務原市金属団地九七四）は、六月二十日に千葉県匝瑳郡野栄町で、二十七日には奈良県五條市で、それぞれ「頑張る機械化家族養鶏見学会」と「最新レイヤー設備説明会」を開いた。同社では、レイヤー業界が大きな変革期を迎え、農場間での競争激化が予想される中で、当初の設備費だけでなく、その後のランニングコストを含めた農場設備の最適化が経営に与える影響が一層大きくなっていることに注目する必要があるとして、農場見学会と最新設備の説明会を開いたもの。六月二十日の見学会には、東日本地区の生産者や飼料メーカー、鶏卵関係者など約八十人、二十七日には西日本地区の関係者ら約七十人参加するなど、関心の高さをうかがわせた。

越川エッグファームを見学

六月二十日に訪問した千葉県・野栄町の越川エッグファーム（越川恭成代表）は、家族養鶏で成鶏を約四万羽飼養し、卵は養鶏仲間八人と共同で設立した有限責任事業組合（LLP）センターを経由して生協向けに出荷している。

昨年十月の台風で鶏舎の一部が倒壊したこともあって、今回、東洋システムのハイテムサルメットウイスケージシステムを導入した。

多くの生協のバイヤーにも視察してもらったところ、一つの生協からは、このシステムの鶏舎は、ケージ列下のホコリもスレーパーで機外に出されるため、ケージ内の環境が改善される④鶏糞の乾きが早まり、エアパイプ方式と比較して五～一〇％水分が少なくなっているなど、プラス評価が多かった。

ヤローラーを使用して、ケージ（W一二〇×D一二〇×H一九〇㎝）は十四段で、扉段（鶏舎側とケージ天井側）を同一位置に整理）としている。

除糞ブレードは、駆動ローラーのほぼ真下に位置し、六羽の鶏糞、羽根などが落下した後、ベルトにしっかり当たるようになっている。さらに、②フィルター掃除なしの除糞ベルトを動かす間隔がかからない③ダイスクレードが動いているため、外に出て行く。

さらに、ハイテムファームコンピュータ（ファンなどが落下した後、ベルトにしっかり当たるようにしている。

絶縁機は、エッグクリアですぐにわかるようになっている。

設備による第2の利益

農場を見学した後、国産鶏肉の競争の時代を迎えると同時に、一〇〇六年からは